

使徒の働き 第16章 6節

「それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。」

使徒の働きの大部分は旅の記録である。それも旅する者たち自身の興味関心によらない。使徒による旅からすれば当たり前である。なんらかの使命に仕える者たちを使徒と呼ぶことからして、この旅は自分たちのものではないのは当然である。

彼らの旅では困難なことが頻繁にあった。迫害があり、飢餓があり、投獄があり、不眠のときがあり、乏しいときがあり、死に直面する場面もあり、あげればきりが無い程の険しい旅であった。にもかかわらず彼らの旅は続く。もし、この旅が自分たち自身のためであったなら、いとも簡単に放棄していたはずである。しかし、彼らの旅は続く。

この旅の記録にしばしば使われる言葉が、「それから」である。今までの旅、直前でどのようなことがあったとしても、使徒たちには、「それから」が肝心なこととしてある。与えられた使命を生き抜くことをシンプルに凝縮させ、旅の時々々の節目として表明する言葉である。はちまきを締めなおし、馬の手綱をあらためて固く握りしめる思いのこもった、「それから」である。

2021年12月2日